

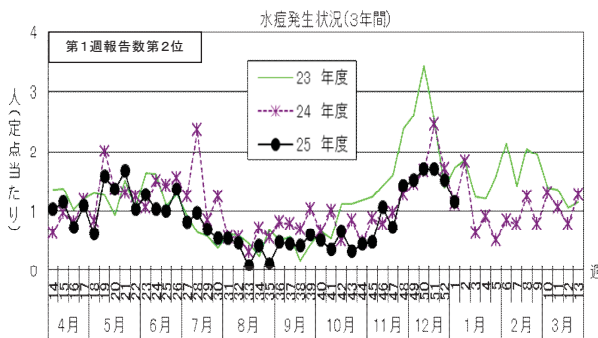
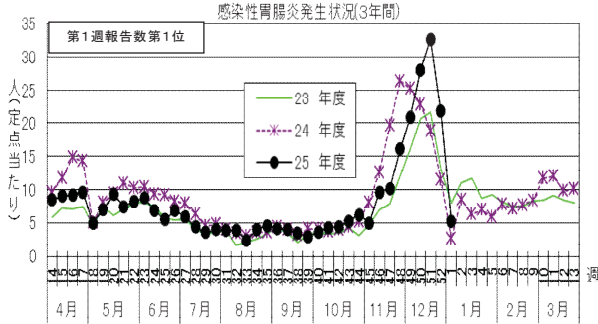
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年12月30日(月)～平成26年1月5日(日) [平成26年第1週] の感染症発生状況

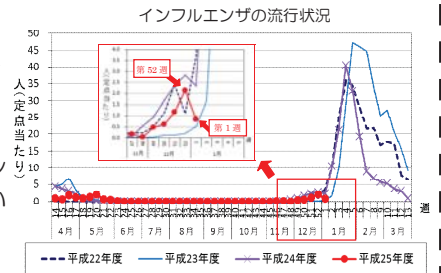
第1週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 水痘 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.23人と前週(2.76)より患者報告数は大幅に減少していますが、第1週は年末年始の期間であり、休診医療機関が多かったため、全体的に報告数が少なくなっています。
 インフルエンザは定点当たり0.84人と前週(2.13)より患者報告数は減少しています。ただし、今後冬期休暇が終了し、学校、幼稚園、保育所などでの集団生活が再開した後に、インフルエンザの流行が本格化していくと推測されますので、今後の発生動向に注意が必要です。



インフルエンザ予防の徹底を！！

いよいよ寒さも本番になり、これから本格的な「インフルエンザ流行シーズン」が始まります。グラフは、市内のインフルエンザの流行状況です。年末年始は多くの医療機関が休診であったことから、第1週の患者報告数は減少していますが、例年の傾向をみると、今後急激に増加することが推測されます。

これから「受験シーズン」を迎える方も多いかと思しますので、「受験日にインフルエンザで寝込んでしまった…」ということのないように、次に紹介するインフルエンザの予防法を徹底しましょう。



インフルエンザの予防法 基本の6か条

- 1 流行前のワクチン接種
- 2 咳エチケット
- 3 外出後の手洗い等
- 4 適度な湿度の保持
- 5 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- 6 人混みや繁華街への外出を控える

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

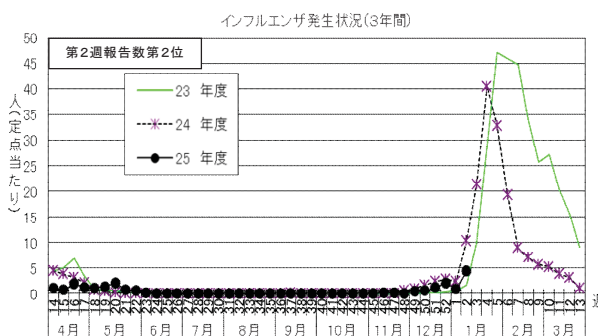
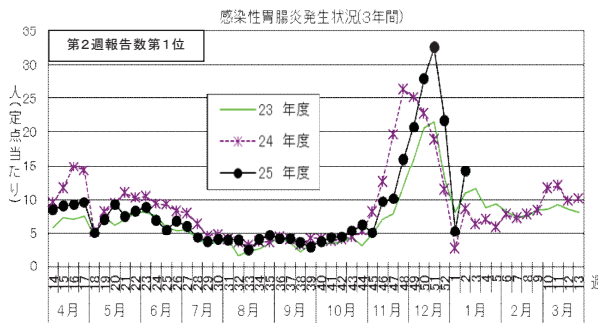
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年1月6日(月)～平成26年1月12日(日) [平成26年第2週] の感染症発生状況

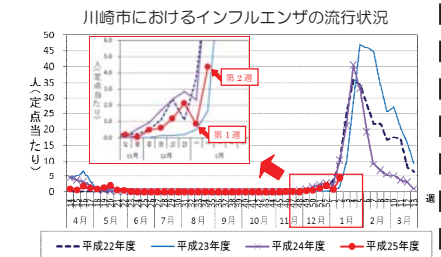
第2週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) 水痘 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり14.18人と前週(5.23)より患者報告数は大幅に増加しており、例年より高いレベルで推移しています。
 インフルエンザは定点当たり4.37人と前週(0.84)より患者報告数は大幅に増加していますが、例年より低いレベルで推移しています。
 水痘は定点当たり2.58人と前週(1.15)より患者報告数は増加しており、例年より高いレベルで推移しています。



インフルエンザの流行～まん延防止のために～

川崎市において、第2週におけるインフルエンザの患者報告数が大幅に増加しました。例年の傾向から、今後さらに患者報告数が急増することが推測されますので、ご注意ください。

また、インフルエンザは、学校保健安全法により、出席停止期間が規定されている疾患です。



学校保健安全法での取扱い

インフルエンザは学校保健安全法において、第二種感染症とされています。出席停止期間の基準は次のとおりです。

○発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過するまで。ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められたときは、この限りでない。

＜予防と対策＞

- 1 手洗いの徹底
- 2 マスクの着用
- 3 ワクチン接種
- 4 適切な湿度
- 5 バランスの取れた食事
- 6 不要な外出を控える

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

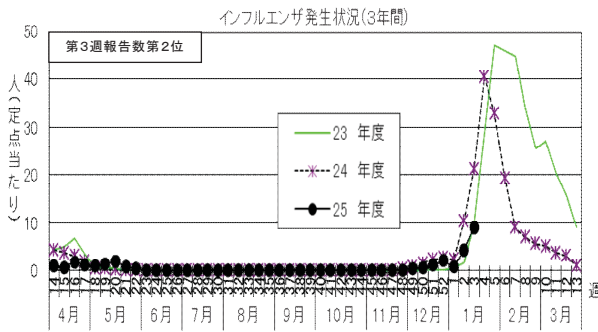
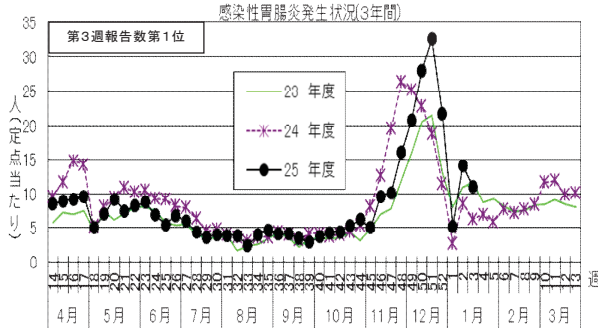
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年1月13日(月)～平成26年1月19日(日)【平成26年第3週】の感染症発生状況

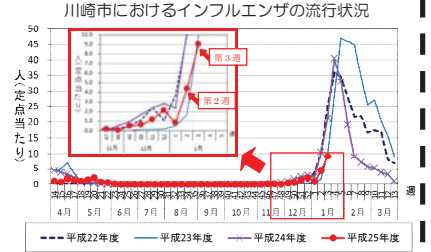
第3週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり11.00人と前週(14.18)より患者報告数は減少しており、例年よりやや低いレベルで推移しています。
 インフルエンザは定点当たり9.02人と前週(4.37)より患者報告数は大幅に増加していますが、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.76人と前週(1.45)より患者報告数は増加しており、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザに要注意～患者急増中～

川崎市において、第3週におけるインフルエンザの患者報告数がさらに増加し、**流行発生注意報基準値(定点当たり10人)**に近づいています。

すでに、市内でもインフルエンザによる学級閉鎖が続いていますので、引き続き手洗いや咳エチケットを徹底しましょう。

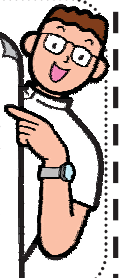


海外では鳥インフルエンザ(H7N9)も・・・

世界保健機関(WHO)によると、中国と香港で鳥インフルエンザ(H7N9)の患者が発生しています。また、台湾でも、中国に渡航歴のある鳥インフルエンザ(H7N9)の患者が発生しました。中国、香港、台湾に渡航される方は、今後の情報に注意するとともに、鳥に直接接触したり、病気の鳥や死んだ鳥に近寄ったりしないようにしましょう。



鳥インフルエンザ(H7N9)とは
 今までヒトへの感染が知られていなかったインフルエンザで、昨年の4月1日にWHOが中国でのヒトへの感染事例を初めて公表しました。感染源はまだわかっていませんが、ヒトからヒトへの持続的な感染は確認されていません。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

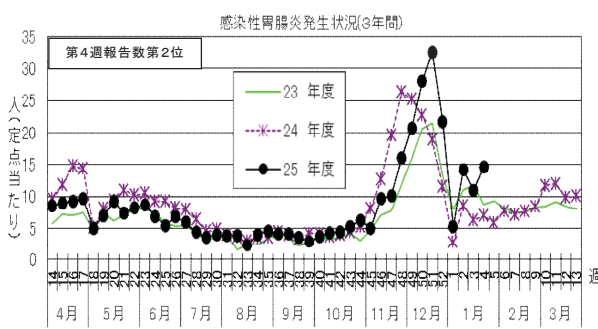
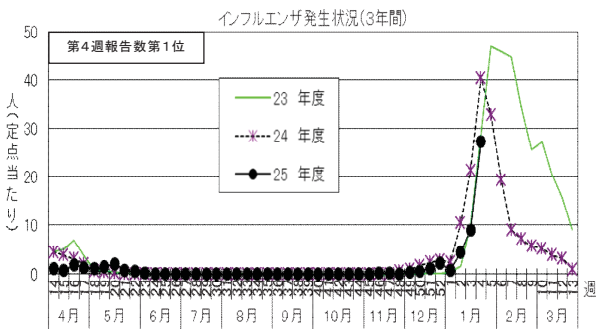
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年1月20日(月)～平成26年1月26日(日)【平成26年第4週】の感染症発生状況

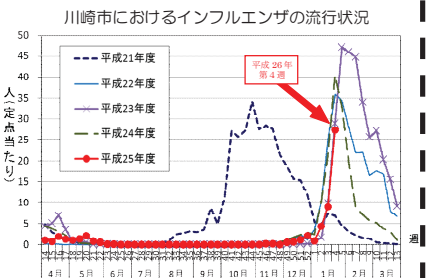
第4週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) 水痘 でした。
 インフルエンザは定点当たり27.28人と前週(9.02)より患者報告数は大幅に増加し、**流行発生注意報基準値(定点当たり10人)**を超えたため、市内に**流行発生注意報**を発令しました。
 感染性胃腸炎は定点当たり14.61人と前週(11.00)より患者報告数は増加しており、例年より高いレベルで推移しています。



インフルエンザ流行発生注意報発令！！

川崎市における第4週のインフルエンザ患者報告数が、**定点当たり27.28人**となり、**流行発生注意報基準値(定点当たり10人)**を超えたため、**市内に流行発生注意報**を発令しました。

今後の大きな流行に備え、**手洗いや咳エチケット(マスクの着用)などの予防対策**を徹底することが重要です。



平成23・24年度では、1月に最も多く検出されたウイルスは、「A香港型」でした。今年度は、例年に比べて流行するウイルスの型が異なるため、今後の流行状況に注意が必要です。



今年はB型の集団発生も・・・

川崎市では、市内で流行しているインフルエンザウイルスの型の検査を行っています。年明け以降の検出状況は以下のとおりです。

- ・ A香港型 …… 7件
- ・ AH1pdm09型 …… 19件
- ・ B型 …… 12件

※AH1pdm09型：平成21年に流行した新型インフルエンザウイルス)

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年1月27日(月)～平成26年2月2日(日)【平成26年第5週】の感染症発生状況

第5週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。インフルエンザは定点当たり40.85人と前週(27.28)より患者報告数は大幅に増加し、流行発生警報基準値(定点当たり30人)を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。

感染性胃腸炎は定点当たり12.00人と前週(14.61)より患者報告数は減少していますが、例年より高いレベルで推移しています。

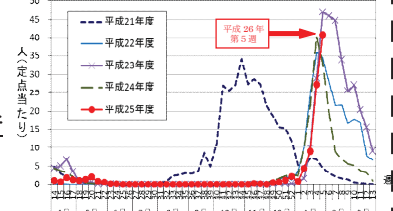


「インフルエンザ」流行発生警報発令！！

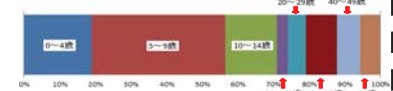
年明け以降、川崎市においてインフルエンザの患者報告数が急増しており、第5週のインフルエンザ患者報告数が定点当たり40.85人となり、**流行発生警報基準値(定点当たり30人)を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。**

年齢別では、小学校入学前後の子どもの割合が多いので、保育園や小学校等における集団生活の場においては、手洗いや咳エチケット(マスクの着用)などを心がけましょう。

川崎市におけるインフルエンザの流行状況



インフルエンザ患者年齢別割合(第5週)



海外で麻しんに感染する事例が増加しています！

昨年未から、全国的に麻しんの届出数が増加し、特にフィリピンなど海外から帰国した方が麻しんを発症する事例が目立っています。今後、国内外における麻しんの流行情報に注意が必要です。

麻しんの流行地へ渡航される際には、麻しんの予防接種を検討しましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年2月3日(月)～平成26年2月9日(日)【平成26年第6週】の感染症発生状況

第6週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。インフルエンザは定点当たり36.11人と前週(40.85)より患者報告数は減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎は定点当たり9.18人と前週(12.00)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

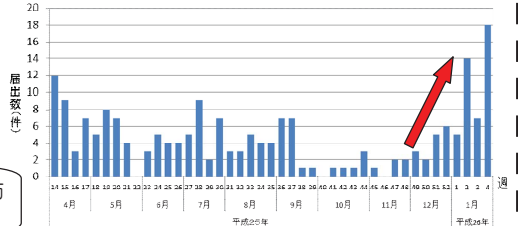


要注意！！麻しん患者の増加について

海外で麻しんに感染し、帰国してから発症する方が、全国的に増えています。世界保健機関(WHO)によると、アジア地域では平成25年以降、**中国、ラオス、フィリピン**などで麻しん患者の報告が多く、特に**フィリピン**から帰国された方が発症する事例が相次いでいます。

川崎市においても、年明け以降、すでに3件の麻しん患者の届出があり、いずれもフィリピンでの感染が疑われています。

全国における麻しんの発生届出数(平成26年第4週診断分まで)



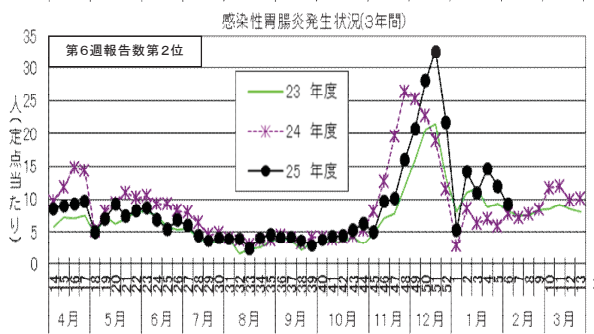
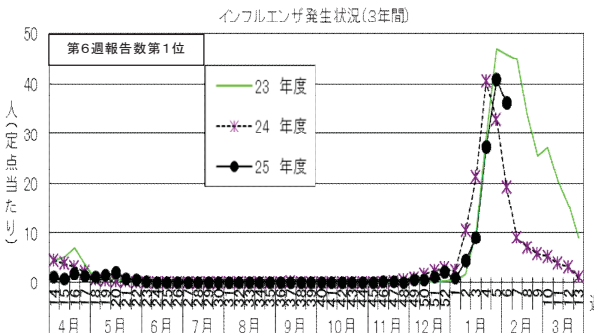
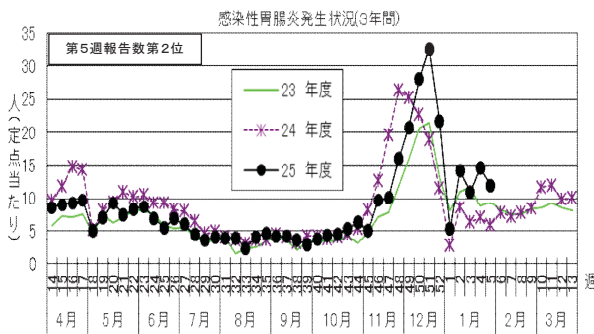
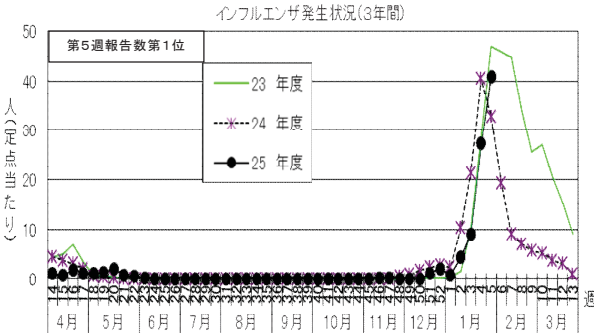
麻しん、風しんの予防はワクチンで！

～風しんの流行に伴う緊急対策事業 もうすぐ終了～

川崎市では、平成26年3月31日まで、**麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施しています。**このワクチンは麻しんにも有効であり、2000円程度で接種することができますので、対象者の方は、お早めに接種を検討しましょう。詳細は次のホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000053514.html>

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 健康安全研究所: 044-276-8250 (麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するお問い合わせは、各区役所保健福祉センターへご連絡ください。)



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年2月10日(月)～平成26年2月16日(日)【平成26年第7週】の感染症発生状況

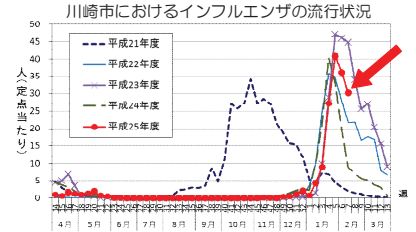
第7週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)水痘 でした。
 インフルエンザは定点当たり30.20人と前週(36.11)より患者報告数は減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎は定点当たり6.61人と前週(9.18)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 水痘は定点当たり1.24人と前週(1.06)より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



インフルエンザ減少傾向でも、注意が必要！

川崎市におけるインフルエンザの患者報告数は、第5週の定点当たり40.85人をピークに、その後減少傾向にありますが、流行発生警報基準値(定点当たり30人)を超え、依然として高いレベルで推移していますので、引き続き注意が必要です。

日頃から、こまめな手洗いや咳エチケット(マスクの着用)を徹底し、インフルエンザを予防しましょう。



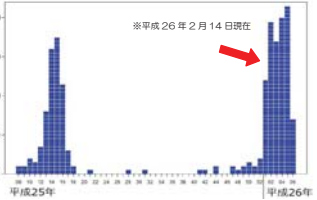
鳥インフルエンザ(H7N9)にも注意！

WHO(世界保健機関)によると、中国等での鳥インフルエンザ(H7N9)の患者数が、年明け以降、急増しています。

そのため、流行地に渡航される方は、今後の情報に注意するとともに、鳥に直接触ったり、病気の鳥や死んだ鳥に近寄ったりしないようにしましょう。



中国、香港、台湾における鳥インフルエンザ(H7N9)患者数(WHOから引用)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年2月17日(月)～平成26年2月23日(日)【平成26年第8週】の感染症発生状況

第8週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。
 インフルエンザは定点当たり30.91人と前週(30.20)より患者報告数はわずかに増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎は定点当たり6.88人と前週(6.61)より患者報告数はわずかに増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

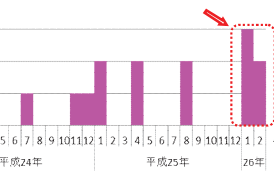


「子ども予防接種週間」3月1日(土)～3月7日(金)

3月1日～7日は子ども予防接種週間です。入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませ、感染症を未然に防ぎましょう。

特に、年明け以降、全国的に麻しんの届出数が多くなっており、市内においても例年を超えるペースで発生しています。

川崎市における麻しん患者届出数(平成26年2月12日23日診断分まで)



「風しん予防キャンペーン」3月1日(土)～3月7日(金)

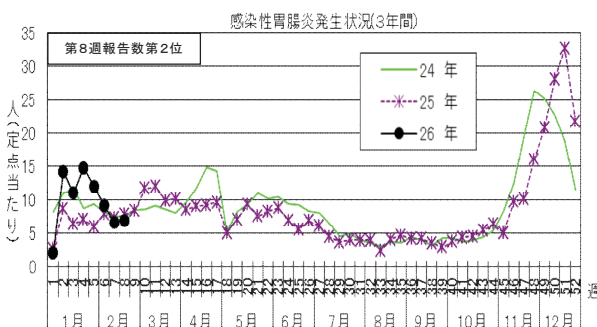
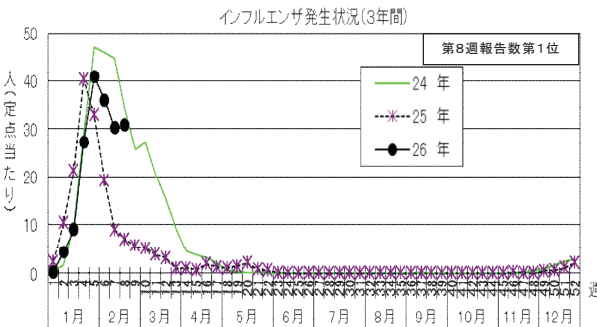
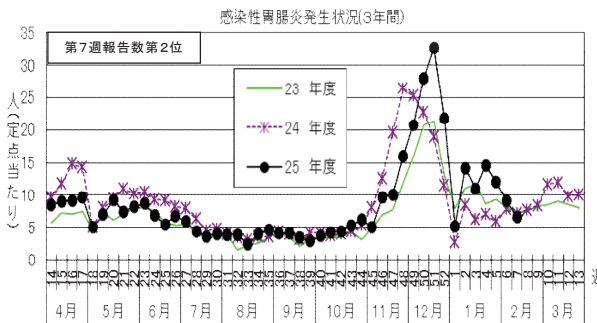
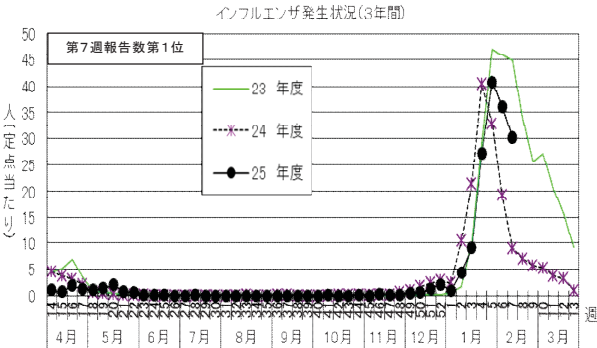
川崎市民で、次のいずれかに該当する方については、平成26年3月31日までの間、麻しん風しん混合ワクチンを2,000円程度で1回接種することができます。

1. 23歳～39歳の男性(昭和49年4月2日～平成24年4月1日生まれ)
2. 妊娠している女性の夫(児の父親)
3. 23歳以上の妊娠を予定又は希望している女性(平成24年4月1日以前の生まれ)

特に早めの接種が重要です。

※麻しん風しん混合ワクチンは、麻しんの予防にも効果がありますので、本事業の接種対象の方は、この機会にワクチン接種を御検討ください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 健康安全研究所: 044-276-8250 (麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものを除く。)
 ※麻しん風しん混合ワクチン接種に関することは各区役所保健福祉センター地域保健福祉課へ御連絡ください。



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年2月24日(月)～平成26年3月2日(日) [平成26年第9週] の感染症発生状況

第9週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。インフルエンザは定点当たり30.63人と前週(30.91)より患者報告数はわずかに減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎は定点当たり7.33人と前週(6.88)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



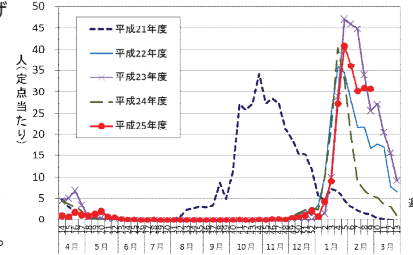
インフルエンザの勢い止まず！学校等は要注意

川崎市におけるインフルエンザ患者報告数は、第5週(定点当たり40.85人)をピークに減少傾向にありましたが、第7～9週にかけて、高いレベルで横ばい状態が続いています。

また、2月以降は、B型インフルエンザが多く検出されています。A型インフルエンザに一度感染しても、B型インフルエンザに再度感染することもありますので、引き続き注意が必要です。

インフルエンザを予防するためには、こまめな手洗いや咳エチケット(マスクの着用)などを徹底することが重要です。

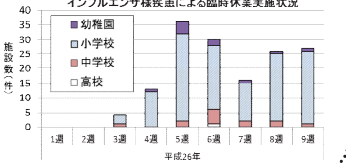
川崎市におけるインフルエンザの流行状況



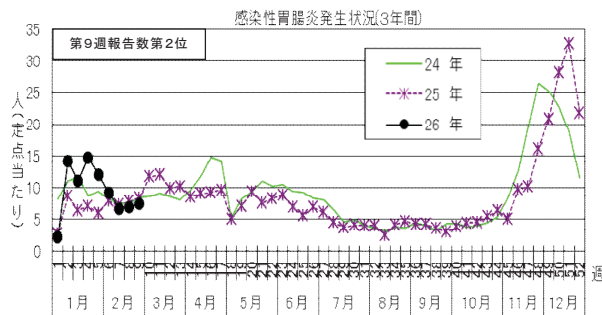
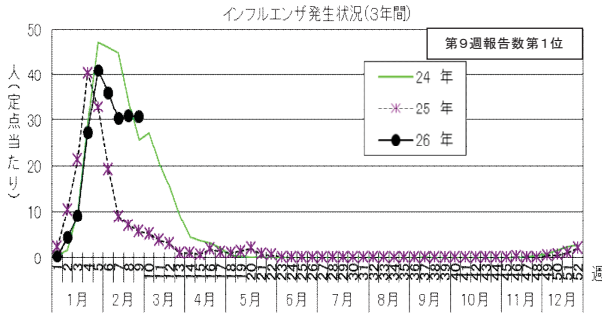
市内における学校等での発生状況

市内の学校や幼稚園においても、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の臨時休業が続いています。特に、小学校において割合が高いので御注意ください。

川崎市内の学校等におけるインフルエンザ様疾患による臨時休業実施状況



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年3月3日(月)～平成26年3月9日(日) [平成26年第10週] の感染症発生状況

第10週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。インフルエンザは定点当たり23.11人と前週(30.63)より患者報告数は減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎は定点当たり6.45人と前週(7.33)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

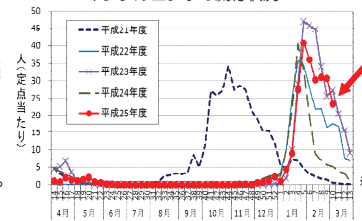


引き続き予防対策の徹底を！～インフルエンザ～

川崎市におけるインフルエンザの患者報告数は減少傾向にありますが、依然として高いレベルで推移していますので、引き続き予防対策を徹底しましょう。

今回は「**かかったときの注意点**」についてご紹介しますので、参考にしてください。

インフルエンザの流行状況



かかったときの注意点

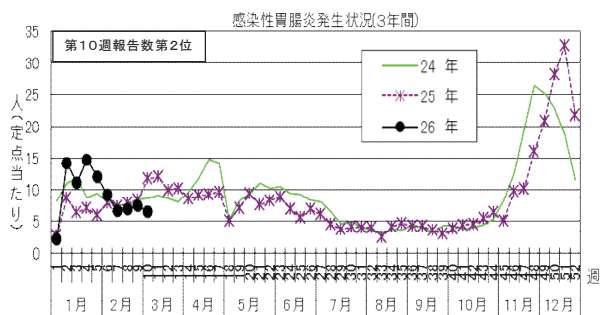
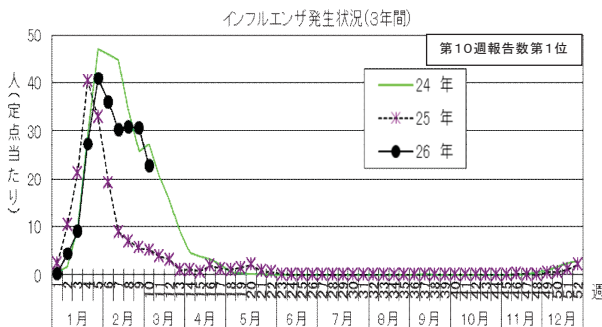
- ①咳が出るときは、マスクをしましょう。
- ②家族が患者さんと接するときは、念のためマスクを着用し、こまめに手洗いをしましょう。



- ③発症後5日及び解熱後2日程度は他の人にうつす可能性がありますので、**自宅でゆっくり療養**しましょう。
- ④こまめな換気を心がけましょう(1時間に1回程度)。※風の入口と出口をつくり、風が通り抜けるようにすると効果的です。

※インフルエンザの感染力はとて強く、対策を行っていても、誰かにうつってしまうことがあります。家族全員で予防対策に取り組むことが大切です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

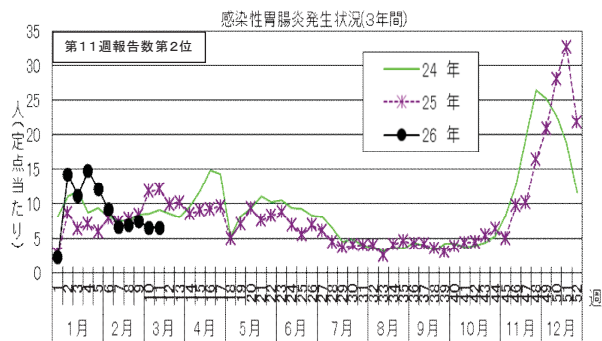
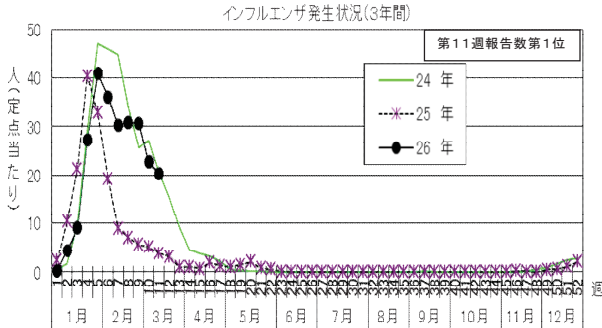
【感染症発生動向調査事業から】



平成26年3月10日(月)～平成26年3月16日(日)【平成26年第11週】の感染症発生状況

第11週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)水痘 でした。インフルエンザは定点当たり20.30人と前週(23.11)より患者報告数は減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎は定点当たり6.48人と前週(6.45)より患者報告数はわずかに増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



対象者の方は急いで！！～麻疹風しん混合ワクチン接種～

風しんは、例年春に流行がみられます。また、大きな流行がみられた年は、翌年も引き継ぎ流行することが多く、今年も春以降注意が必要です。妊婦が風しんに感染すると、胎児に先天性心疾患、難聴、白内障などの症状が現れることがあるため、妊娠前にワクチン接種を受けることが大切です。

川崎市では、平成26年3月31日まで麻疹風しん混合ワクチン接種費用の一部助成を実施しています。まだ接種を受けていない対象者の方は、是非この機会にご検討ください。



麻疹風しん混合ワクチン接種費用一部助成の概要

対象者

川崎市民で、原則として風しんにかかったことがなく、予防接種を受けたことがない方であり、次のいずれかに該当する方については、この緊急対策により1回接種することができます。

1. 妊娠している女性の夫(児の父親)
2. 23歳～39歳の男性(昭和49年4月2日～平成2年4月1日生まれ)
3. 23歳以上の妊娠を予定又は希望している女性(平成2年4月1日以前の生まれ)

接種費用

2,000円程度(通常は1万円程度)

接種期限

平成26年3月31日(月)まで

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部 各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

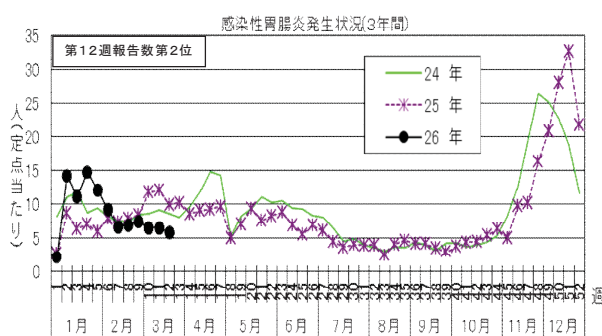
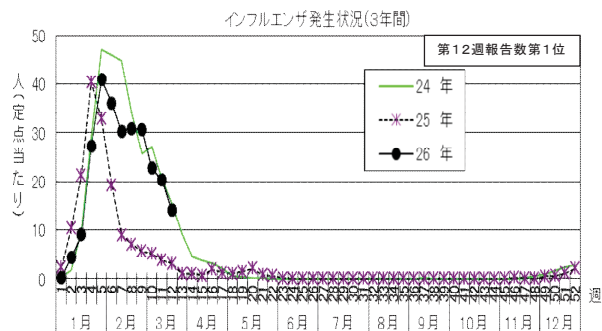
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年3月17日(月)～平成26年3月23日(日)【平成26年第12週】の感染症発生状況

第12週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。インフルエンザは定点当たり14.13人と前週(20.30)より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎は定点当たり5.73人と前週(6.48)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。



春先に多いロタウイルスによる胃腸炎！！

平成25年度の感染性胃腸炎の流行は、平成11年のデータ収集開始以降、平成18年度に次ぐ過去2番目に大きな流行となりました。冬期にピークをむかえ、現在は減少傾向にありますが、例年春先からロタウイルスによる胃腸炎が増加します。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)の定点医療機関における届出制度は、平成25年第42週から開始され、平成26年の第12週に市内で初めての報告がありました。

春先にかけてはロタウイルスに注意が必要です。



ロタウイルスとは？

潜伏期間・症状

2～4日の潜伏期間の後、水のような白っぽい下痢やおう吐が繰り返されます。通常1～2週間で自然に治癒しますが、重篤な脱水症状や脳炎などを引き起こすこともありますので注意が必要です。

感染予防対策

- ・オムツの適切な処理
- ・オムツ交換時は使い捨てのゴム手袋などを使いましょう。
- ・手洗いの徹底
- 指輪や時計を外し、石けんで洗いましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部 各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年3月24日(月)～平成26年3月30日(日) [平成26年第13週] の感染症発生状況

第13週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)水痘 でした。
 インフルエンザは定点当たり7.87人と前週(14.13)より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。また、第13週には病原体定点医療機関からの検体の搬入はありませんでした。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.76人と前週(5.73)より患者報告数はわずかに増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



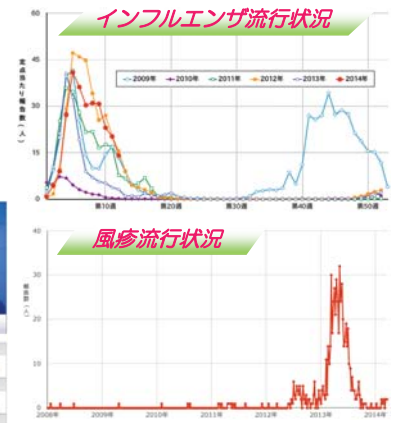
川崎市感染症情報発信システムの運用を開始しました

川崎市では、4月1日から、さまざまな感染症の流行状況を公開する「川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)」の運用を開始しました。

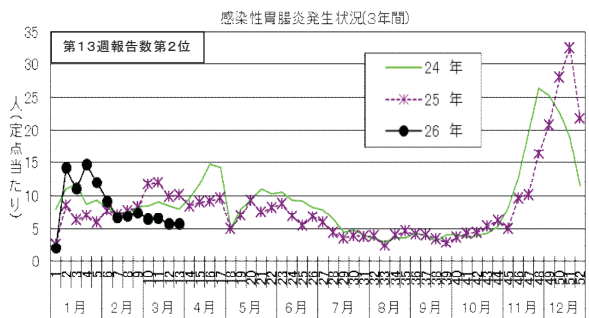
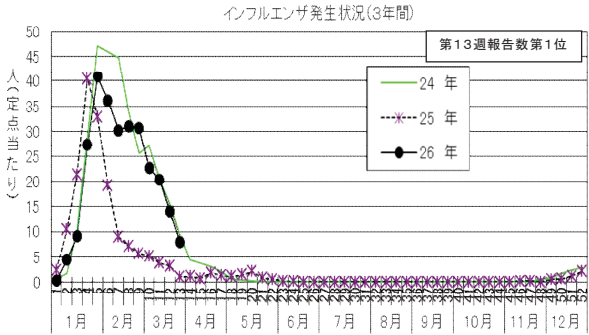
<https://kidss.city.kawasaki.jp/modules/topics/>

本システムでは、医療機関等から収集したインフルエンザなどの患者情報を、自動的に集計し、グラフやマップなどで分かりやすく公開しています。疾患別情報も掲載していますので、施設や家庭での感染症の予防対策に是非御利用ください。

トップページ画面



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年3月31日(月)～平成26年4月6日(日) [平成26年第14週] の感染症発生状況

第14週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザは定点当たり4.61人と前週(7.87)より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎は定点当たり6.30人と前週(5.76)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 麻しんの届出が1件ありました。春から夏にかけて届出数が増加する傾向がありますので、今後注意が必要です。



麻しんの流行に御注意ください！！

年明け以降、川崎市において「麻しん」の届出数が増加しています。1月は海外から帰国後に発症する事例が目立っていましたが、2月以降は海外渡航歴のない患者が多くなっています。

また、平成26年13週までの神奈川県における届出の約半数を川崎市が占めています。

麻しんは通常春から夏にかけて流行する傾向がありますので、これから注意が必要です。



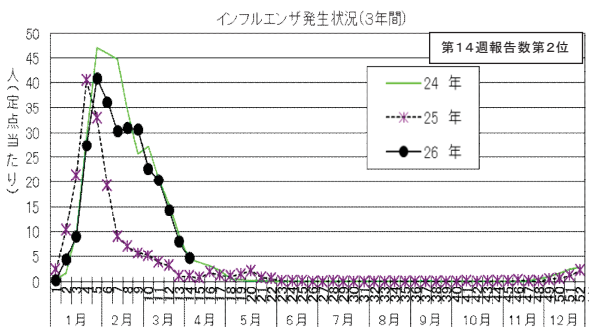
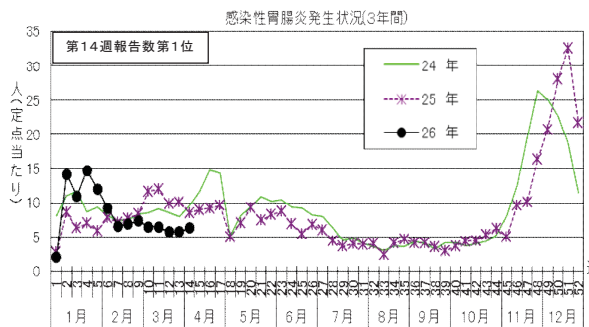
麻しん注意点！



麻しんの初期症状は発熱や、咳、くしゃみなどで風邪と似ており、麻しんと気づかずに周囲に感染させてしまうことがあります。

麻しん患者との接触があり、発熱などの症状が出た場合には、医療機関を受診する前に、必ず連絡をして状況を伝えるようにしましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



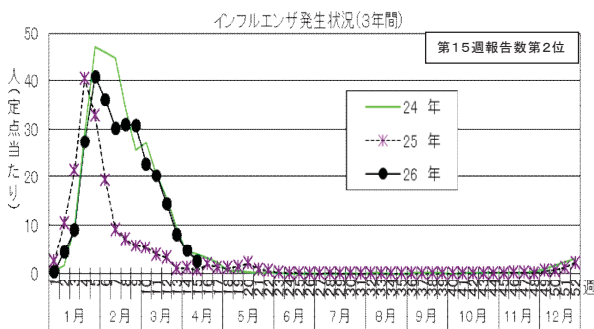
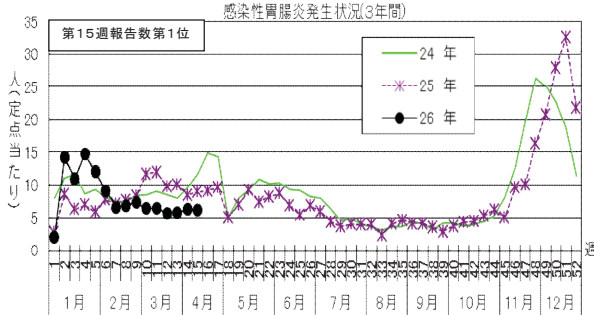
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年4月7日(月)～平成26年4月13日(日)【平成26年第15週】の感染症発生状況

第15週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎は定点当たり6.18人と前週(6.30)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。インフルエンザは定点当たり2.50人と前週(4.61)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.18人と前週(1.24)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。



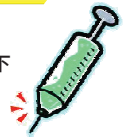
～海外旅行に行く際の予防接種について～

もうすぐゴールデンウィークです。休暇を利用して海外旅行に行かれる方も多いと思います。海外では、通常日本で感染しないような病原体に感染する可能性があります。予防接種で防ぐことができるものもあります。

必要な予防接種は、渡航地、滞在期間、滞在目的などによって異なります。次の記事を参考にしてご検討ください。

渡航前に予防接種が推奨される疾患と対象者

- 黄 熱**: 感染リスクのある地域に渡航する人
- A 型肝炎**: 途上国に中・長期(1か月以上)滞在用する人、特に40歳以下
- B 型肝炎**: 血液や体液に直接接触する可能性のある人
- 破 傷 風**: 渡航先でけがをする可能性の高い人
- 狂 犬 病**: イヌやキツネ、コウモリなどの多い地域へ行く人、動物と直接接触する可能性の高い人
- ポ リ オ**: 流行地域に渡航する人
- 日本脳炎**: 流行地域に長期滞在用する人(主に東南アジアで豚を飼っている農村部)
- 麻疹・風しん**: 1回も接種していない人、2回目を接種していない人



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

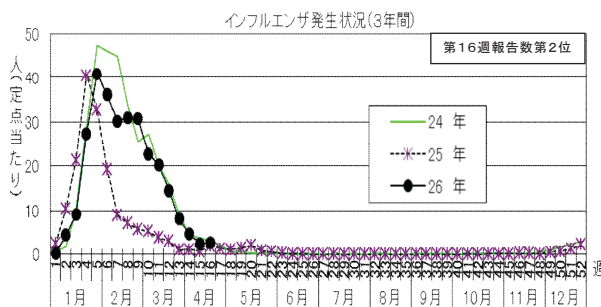
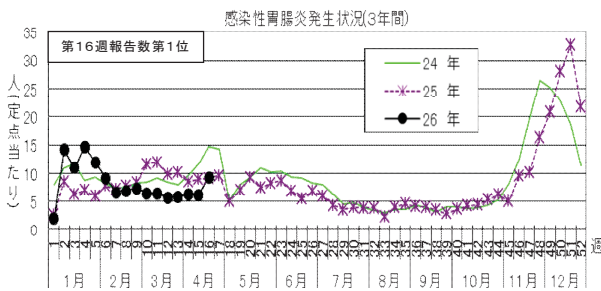
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年4月14日(月)～平成26年4月20日(日)【平成26年第16週】の感染症発生状況

第16週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎は定点当たり9.27人と前週(6.18)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。インフルエンザは定点当たり2.56人と前週(2.50)より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.94人と前週(1.18)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



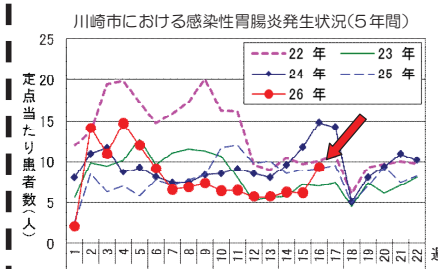
油断大敵 ～感染性胃腸炎に注意しましょう～

感染性胃腸炎は主にウイルスを原因とする胃腸炎の総称で、症状は下痢やおう吐などです。原因となるウイルスは、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サボウイルス」、「アデノウイルス」などで、**病原体に汚染された食品やおう吐物・便を介して感染します。**

川崎市では、平成25年12月に流行のピークをむかえた後、患者数は減少していましたが、第16週の報告数は前週の約1.5倍と再び増加しているため、注意が必要です。

～感染を広げないために～

1. こまめな手洗いを心がけましょう。
2. おう吐物や便は、次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)を使用し、適切に処理しましょう。
3. 使い捨ての手袋、マスク、エプロンを活用しましょう。
4. 二枚貝を調理するときは、十分に加熱しましょう。(中心温度 85～90℃で少なくとも90秒間)



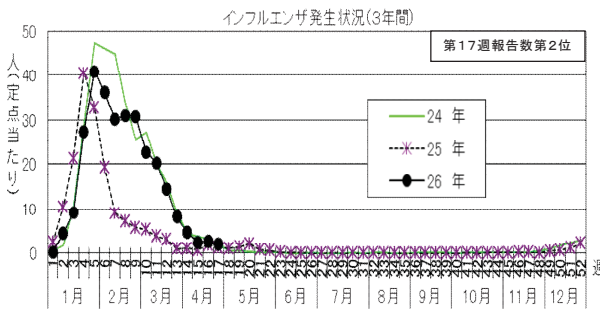
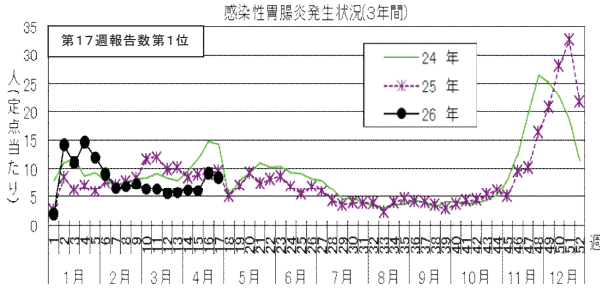
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年4月21日(月)～平成26年4月27日(日)【平成26年第17週】の感染症発生状況
 第17週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり8.55人と前週(9.27)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 インフルエンザは定点当たり1.94人と前週(2.56)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.79人と前週(1.94)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



～海外で気をつけたい感染症の予防方法～

ゴールデンウィークは海外へ渡航される方も多い時期です。海外で注意すべき感染症及び流行地域での予防対策についてご紹介します。

食べ物に注意！

腸チフス、赤痢、コレラ、A型肝炎などを予防するためには、食べ物や飲み物に注意が必要です。多くは下痢を引き起こしますが、A型肝炎(症状：倦怠感・黄疸)のように下痢が主症状でない感染症もあります。

- 手洗いをこまめにしましょう
- 生水を飲まないようにしましょう
- 水を避けるようにしましょう
- 完全に火の通った食べ物を食べましょう
- サラダや生の野菜は避けましょう



動物や虫に注意！

狂犬病、鳥インフルエンザ(インフルエンザH7N9等)、デング熱、マラリアなどを予防するためには、不用意に動物に触らないことが大切です。また、虫に刺されて感染する病気もありますので、注意しましょう。

- 動物にはむやみに手を出さず、近寄らないようにしましょう
- 長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履き等は避けましょう
- 虫除け剤等を使用し、蚊に刺されないようにしましょう



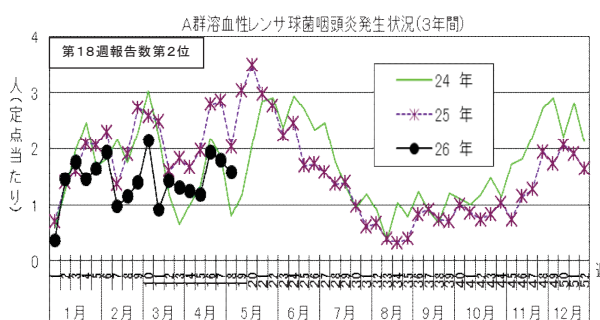
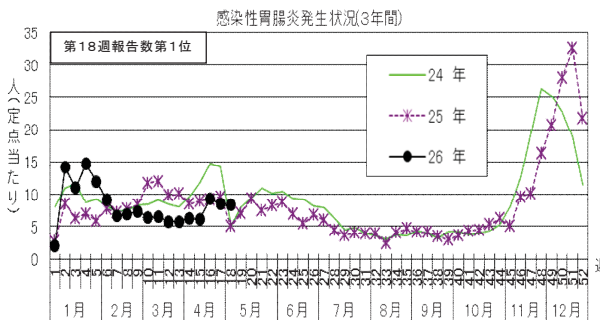
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成26年4月28日(月)～平成26年5月4日(日)【平成26年第18週】の感染症発生状況
 第18週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。
 感染性胃腸炎は定点当たり8.36人と前週(8.55)より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.58人と前週(1.79)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザは定点当たり0.92人と前週(1.94)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



これから注意したい感染症～咽頭結膜熱～

現在、全国的に咽頭結膜熱(プール熱とも呼ばれる)の患者報告数が増加しています。また、川崎市においても第18週に報告数が増加しました。これから夏を迎え、さらに増加すると推測されるため、今後注意が必要です。

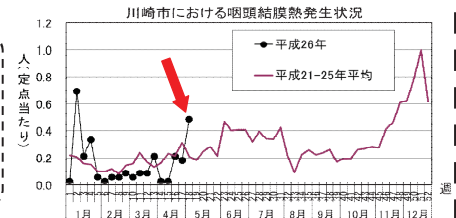
咽頭結膜熱ってどんな病気？

- アデノウイルスによる感染(飛沫・接触感染)で、39℃前後の発熱、咽頭炎・結膜炎などを発症
- 潜伏期間は5～7日で、小児(特に5歳以下)に多い
- 通常、6月頃から徐々に流行が始まり、7～8月にピークとなる
- 感染者の咳やくしゃみなどに含まれるウイルスによって感染する
- 感染者が触れたタオルや物、ウイルスに汚染されたプールの水などを介して、ウイルスが口や眼などの粘膜に入って感染する



咽頭結膜熱の予防方法は？

- 感染者との密接な接触は避ける
- 流水と石けんによる手洗いを徹底
- タオルの共用は控える
- プール利用前後にシャワーを浴びる



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250